

I 実践

1 研究主題

互いに認め合い、思いやりと助け合いの心を育てる人権教育の在り方

2 主題設定の理由

本校では、「のぞみ大きく、心ゆたかに、たくましく生きる、金沢っ子の育成」を教育目標としている。それを受け、児童理解・集団づくりの研修と実践を土体にした一人一人を生かす学級経営と授業実践を行うこととした。これは、各学年に応じて児童自身が自分のよさに気づき伸ばす場を設定し、一人一人のよさが発揮され、認め合い・高め合える集団づくりを目指すものである。

また、校長の掲げる金沢小児童の合言葉「命」「ドンマイ」「ありがとう」の大切さを全校朝会や朝の会・帰りの会等で伝えていくとともに、学級・校内に言葉を掲示し、人権教育の推進に努めている。

本校の児童は、明るく素直であり思いやりのある行動・言動が見られる一方、自己中心的な行動や相手の気持ちを考えない言動も見られ、トラブルが生じることがある。「ドンマイ」「ありがとう」と声をかけ合いながら相手を思いやる心や助け合う心を育て、互いのよさを認め合うことで、自分のよさにも気付くことができるように本主題を設定した。

3 実践内容

(1) 集団づくり

ア わんぱく集会（縦割り集団活動）

1～6年生の縦割り集団を「わんぱくグループ」として年度初めに編成し、月に一度の活動をロングの昼休みに「わんぱく集会」として行っている。上級生は下級生の面倒を見ることで、思いやりの心や態度の育成と自分のよさを発見する機会となっている。下級生は優しく教えてくれる上級生に親しみをもち、一緒に楽しく遊びながら、集団活動のルールや心がまえを学んでいる。

イ わんぱくタイム（学級単位の集団活動）

毎週水曜日の昼休みには、クラスごとに遊びの計画を立て全員で遊ぶ「わんぱくタイム」を行っている。相手の気持ちやさまざまな立場を考慮しながら遊びの計画を立て、みんなで楽しく遊ぶことでよりよい学級づくりに役立っている。

ウ 称賛カードの活用

毎日の生活の中で友達に助けられたことや友達にしてもらって嬉しかったこと、友達のよいところなどをカード（ありがとうカード、友達のいいところ発見カードなど）に書いて、友達に渡したり教室に掲示したりしている。

エ よさを認め合う場の設定・連絡帳や週案の活用

帰りの会で「今日のありがとう」を発表している。児童だけでなく、教師も褒めることで友達のよさをみつけ、認め合うという意識を高めている。また、週案の裏面や連絡帳を利用し、児童一人一人の紹介や頑張ったことを知らせたり、日頃の心温まる出来事などを「素敵な仲間紹介」として載せたりしている。

(2) 環境づくり

ア こころコーナー（人権コーナー）の設置

昇降口の壁面が「こころコーナー」である。人権メッセージやポスターを掲示して、人権への啓発の場としている。

イ 各教室での取り組み

ありがとうカードやいいところ発見カード、ハートビーイングなどを掲示した。友達のよさに気付いたり、感謝の心を表したりするよい機会になっている。



ハートビーイング

(3) 地域・異学年との交流活動

ア 金沢ふれあい会（地域のお年寄りとの交流会）

地域に住むお年寄りを学校に招き、昔の生活の様子や昔の遊びを教えてもらった。給食を一緒に食べて交流を深め、感謝の気持ちと思いやりの心をもつことができた。

イ 自警団との交流会

日頃お世話になっている自警団の方々をクラスに招き、お礼の言葉や歌などを発表したり、会食をしたりして感謝の気持ちを伝えた。



自警団との交流会

ウ 生活科

4月には、2年生が1年生と手をつなぎ、面倒を見ながら校内を案内した。11月の秋祭りには、2年生は1年生を、1年生は幼稚園生を招待して、優しく教えてあげながら楽しく活動する姿が見られた。

(4) 人権教育の啓発

ア 人権教育週間の設置

各学年の発達段階に応じたビデオ教材を視聴し、学年や学級で人権について話し合った。また、中学年・高学年では、全クラスで人権メッセージに取り組み、人権意識を高める機会となった。

- | | |
|----------------|-----------------|
| 1 学年・・・とべないホテル | 2 学年・・・みんないちばん |
| 3 学年・・・プレゼント | 4 学年・・・新ちゃんがないた |
| 5 学年・・・セッちゃん | 6 学年・・・声を聞かせて |

イ 参考資料の提示

校内研修会や職員会議で人権ビデオを視聴したり資料を提示したりして、人権教育に対する理解や資料活用の仕方について周知を図った。

4 成果

- (1) 様々な体験活動を通して、互いに認め合い・高め合う機会をもつことができ、相手を思いやる気持ちや助け合おうとする心が育ってきている。縦割り集団活動での高学年生の接し方を手本にし、わんぱく集会以外の場面でも下級生に優しく接し、学年の枠を超えて一緒に遊んだり、教えてあげたりする姿が見られた。
- (2) 金沢小児童の合い言葉「命」「ドンマイ」「ありがとう」が浸透し、声をかけ合う度に笑顔が見られた。友達を思いやる心をもつことができ、友達のよさを認めることで、集団活動や友達との関係づくりが円滑になってきている。

II 今後の課題

- 1 友達のよいところを認め、思いやりの心が育っている一方、軽い気持ちでのからかいや「みんなも言ってるから。」といった判断力の乏しさを感じることもある。相手の気持ちを考えて行動することができる判断力と実践力、人権感覚の育成を今後も図っていききたい。
- 2 職員研修や家庭・地域への啓発を充実させ、学校・家庭・地域が連携し、人権教育に取り組めるように努めていきたい。

III 人権コーナー設置の様子

《人権コーナー》



《教室・廊下に掲示》

